

第4回 筑西市「道の駅」整備推進協議会「議事要旨」

日時	平成27年10月6日(火) 14:00~16:10
場所	筑西市役所本庁舎2階 研修室
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>岡本 直久 筑波大学システム情報系社会工学域教授  木内 良夫 筑西市副市長  木村 久雄 下館商工会議所専務理事(代理)  大畑 良雄 筑西市商工会会長  鈴木 勝家 筑西市観光協会会長  延山 正 北つくば農業協同組合営農経済部長  高野 雅代 下館青年会議所 総務事務局会計幹事  大畑 清子 筑西市消費者団体連絡会会長  野澤 和子 筑西市地域女性団体連絡会会長  飯山 由美子 筑西地域女性農業士会副会長  角田 光雄 一般公募  江田 彰 一般公募  藤田 幸恵 一般公募  土井 優香里 一般公募  坂入 龍一 筑西市企画部長  菊池 雅裕 筑西市経済部長  渡邊 孝 筑西市土木部長</p> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <p>飯田 寛之 国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所計画課長  渡邊 隆幸 茨城県道路維持課主査(代理)  富田 悟 茨城県地域計画課副参事  檜山 敦 茨城県農村環境課技佐兼課長補佐(技術総括)  村田 是 茨城県観光物産課係長</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>深見 正徳 筑西市企画部次長  稲見 博之 筑西市企画部次長兼企画課長  伊坂 保宏 筑西市企画部企画課道の駅推進室長  小島 一夫 筑西市企画部企画課道の駅推進室主幹  大山 智也 筑西市企画部企画課道の駅推進室主任</p> <p><b>【コンサルタント】</b></p> <p>森 隆信 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部次長  関 詩織 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部技師  芦野 恵 (株)オリエンタルコンサルタンツプロジェクト開発部技師</p>
議題	<p>議事</p> <p>(1) 基本構想</p> <p>① 「道の駅」コンセプト・導入機能について</p> <p>② 「道の駅」立地計画について</p> <p>③ 「道の駅」整備・管理運営手法について</p> <p>(2) その他</p>

## ■議事(1)基本構想 ①「道の駅」コンセプト・導入機能について

### 【事務局説明】

- ・前回までの協議会意見のまとめについて確認した。
- ・協議会における委員意見を反映して整理した整備目的、コンセプト、基本方針及び導入機能について、事務局より説明を行った。
- ・整備目的と基本方針を踏まえたコンセプトを事務局から5案提案した。

### 【主な意見、質疑】

#### ◆基本方針について

- (Q) 筑西市「道の駅」はゲートウェイ型とセンター型の混在型「道の駅」なのか。
- ⇒(A) どちらかに区分するものではない。資料2の上段の「市民が育てる道の駅」でも示しているが、まずは内部の動き(市民による地域交流、魅力づくり)を第1段階としている。その後、第2段階として、外部に対する魅力の発信につなげていくことができればよいと考えている。【事務局】

#### ◆コンセプトについて

- 商工会議所として、道の駅のこれからのあり方を検討する委員会を行っており、第4回目の会議を行ったところ、コンセプトを決めるにあたっては、整備・管理運営手法が深く関わってくるのではないかと、という意見が大多数であった。大半の道の駅は民間事業者が運営していることから、民間事業者が受け入れやすいコンセプトにしなければ民間事業者の手腕が発揮できないのではないかと。そのため、大枠を策定するのはよいが、再度、運営者となる民間事業者を交えてコンセプトを練り直す必要があるのではないかと。コンセプトの策定は、整備・管理運営手法が決まってからではないかと、という意見が商工会議所の委員会において出された。
- ⇒1点誤解があるようだ。運営について民間でやっているところが大半だというご意見だが、実際は、「しもつけ」のような半官半民タイプの運営が多い。【岡本会長】
- ⇒運営を民間に任せる形であれば、民間企業の、経営に関わる部分のコンセプトも大事にしなければ、道の駅運営に関して制約が多くなってしまい、運営が行き詰ってしまうのではないかと。
- ⇒筑西市がつくる道の駅である以上、市民の意見等も踏まえ、まず市としてどのような道の駅を作りたいかということを確認した上で、それを実現できる管理・運営手法は何か、ということを確認した上で検討していきたいと考えている。どのような道の駅を作りたいか、ということを確認した上で言葉がコンセプトに当たると整理している。【事務局】
- ⇒(Q) 極論を言えば、このコンセプトに同意できない民間事業者は来なくていいということか。【岡本会長】
- ⇒(Q) 非常に経営手腕の優れた事業者が、独自のコンセプトで道の駅を新たにつくる、という方法を排除するということか。
- ⇒(A) 基本的な部分に制限をかけるものではない。あくまでも、市が目指す姿や道の駅をつくることによって市にどんな効果をもたらしたいかといったことを表したものがコンセプトだという考え。例えば、農業を活かしたいといったような大きな目標というところでコン

セプトをお考えいただきたい。【事務局】

⇒事業者の発想を制約するようなコンセプトではなく、抽象的な方向でのコンセプトであれば良いと思う。商工会議所では、コンセプトがあまりに具体的なものとなることにより、民間事業者に制約が掛かることを懸念している。「お米を中心とした道の駅」がコンセプトだと、民間事業者が運営者となる場合、制約が掛かり、有能な民間事業者がはじかれてしまう可能性が高いと思う。委員会委員に幅広く米を取り扱っている米屋がいるが、米そのものを道の駅のウリにすることは難しいと言っていた。米そのものは道の駅であまり売れない。お米を加工したおにぎりなどの提供は有りうるが、その場合はカフェやレストランでの売り方ということになる。

○(Q) コンセプトの問題と、道の駅でお米をウリにするという話は切り離して議論したい。本協議で決めたコンセプトはどういう位置づけになるのか。【岡本会長】

⇒(A) 基本的に、基本構想、基本計画、更には基本計画を基に来年度以降に検討される建設および運営に係る内容についての検討は、コンセプトに沿って進めることとなる。但し、100%従わなければいけないというわけではなく、柔軟な対応を行うものだと理解している。例えば、運営については、運営者の意見を反映する余地をもたせているということ。【事務局】

○(Q) 資料2より、道の駅の第1段階におけるキーワードは、「地産地消」「地域交流」「防災」とであると読めるが、この3本柱で道の駅を支えるということによいか。また、コンセプトにこのキーワードを含める必要はないのか。

⇒(A) キーワードをコンセプトに含める必要はないと考えている。【事務局】

○「常に進化する道の駅」や「どんどん進化する道の駅」など、停滞しないで前進していくイメージがよいと思う。

○コンセプトは、基本計画を策定する上での大前提となるものであり、それをベースに様々な導入機能や運営体制を検討していくこととなる。運営について民間事業者に任せることになった場合、当然に、市としてこういうコンセプトでやりたい、こういった整備をしたいという思いで策定した計画について、賛同していただける団体を選定すればよい。何のための道の駅か、ということが重要。民間業者のための道の駅ではない。筑西市でつくる以上は筑西市のためになる道の駅、あるいは筑西市の市民が喜んで楽しんでそこで過ごせる道の駅が大前提である。運営業者はその後の話である。段階をきちんと分けた方がよい。

○案の中では、「進化」や「人々が集い」や「手塩にかけた」という言葉が、市民が頑張って作り上げるという言葉の代名詞だと考える。そういった言葉を使ったものがコンセプトになる。【岡本会長】

○(Q) 5つのコンセプト案から1つに絞り込むのか。

⇒(A) コンセプトは1つと考えている。ただし、必ずしも事務局が提示した5案から選ぶのではなく新たに別の案を提示してもらっても構わない。【事務局】

○案①をベースに、「誰もが集って楽しく過ごせる」あるいは「憩うことができる憩いの場」といったニュアンスが入ればよい。

○「米」のような固有名詞は、印象が強く、引きずられてしまうことが懸念されるため、コンセプトに含めるべきでない。基本方針の中でも「お米をはじめとした農の活用」とあるがなぜ「米」を入れるのか。「米」はひとつのアイデアに過ぎない。地元産の食材・野菜・加工

品を活用したいという意味で、セットで入れてはどうか。

⇒コンセプトに「米」を入れると、足かせになる可能性がある。案⑤は「米」という言葉から始まっているため、他の案より劣るような気がする。【岡本会長】

○地域の偉人である板谷波山さんから「波山の里」など、地域を特徴づける言葉を入れるのはどうか。この地域がどういう地域かということを一言で表せるような言葉があればよい。「緑の里」など、「〇〇の里」というものは非常にキャッチフレーズとなる。

○後発の道の駅になるため、目立つようなコンセプトが必要ではないか。【岡本会長】

○驚きが必要。

○「おもてなしを大事にしながら地域の絆を喚起し、誰もが行きたくなる道の駅」のような少し柔らかい雰囲気でも良いのでは。

○まずは市民が、定期的な会合で意見を出せるような場を設けてもらうこと。そして、常に進化する道の駅。これは、例えば米から始まっているいろいろなかたちで飛躍していくようなイメージで、いいものは残し育て、悪いものは排除していくという意味合いである。この2つが入れば、どんな文言でも、運営に関わる人の考え方で決まると思うので、あまりこだわらなくてもよいと思う。

○「地域を絆び、地域を育て」という言葉が好きなため、案②が良い。

○誰もが集えるといった一番大切なところを理念という形で持ってきて、そこにお米など特徴的なものを肉付けしていけたら良い。ただし、出ている案は少し硬いようには感じる。楽しいことを考えるときには楽しい雰囲気が大事である。

○「誰もが集える道の駅」はすごく良いフレーズだと思うが、誰もが集えない道の駅は世の中にないため、わざわざ言わなくてもよいように感じる。【岡本会長】

○「地域を育て」は、「地域が育てる道の駅」だったら市民が育てるという意味であるため、両方を入れて、「地域を育て地域が育てる道の駅」というのはどうか。【岡本会長】

○案①と案②を合せてもう少し柔らかい言葉にしたい。更に、「楽しく過ごせる」という言葉を入れてほしい。集うだけではなく、先に楽しみがあるべき。柔らかい言葉で、食べて、買って、遊んで、楽しむという感じを入れてもらいたい。

○「常陸秋そば」という茨城県のブランドそばがある。米の生産地としてはこの地域が一番であるが、そばも一つの売りになると考える。茨城県のそばは北海道に次ぐ生産地で、特にこの筑西は茨城県1である。筑西で栽培されたそばがブランドとして長野で売られている。

○1つにこだわる必要はない。

○米にこだわる必要はないという意味。そば打ちは、地元の人たちが参加しやすい。前に「遊ぶ」と出たが、そば打ちで遊んで、売ったそばを食べさせるというのも売りの1つになる。

○特定の品種だけあげるのではなく、そういう優れた農産物を総称して表現するような形がいいと思う。

⇒それをやり始めると他の道の駅と変わらなくなる。【岡本会長】

○小玉スイカはここにしかない。

⇒スイカだとしたら、冬はどうするのか、という話になる。米は日本人の基本の食べ物であり、年がら年中食べるものである。多様な食べ方や活用ができるなど、米は奥が深いと感じる。スイカは売っただけでコーナーが終わってしまい、道の駅全体を展開するテーマとしては若干足りないような気がする。【岡本会長】

○入れなくてはならないキーワードは、「育てる」であるように思う。「進化する」という言葉、要するに発展していく不断に努力を積み重ねるという意味も込めて「常に進化する」という言葉はどうか。【岡本会長】

○やはり①、②の組み合わせだと思う。キャッチーなものがよいという話もあったので、少しつらいところではある。④もキャッチに使えるという意味では、「手塩にかけた」というのは普段使わない言葉だから面白いと思うが、育てる道の駅のようなかたちが基本方針を体現するように思う。

○経営者が創業するときに大事にするものは客であることから、「おもてなし」を入れてもらいたい。お客さんを大事にする道の駅であってほしいし、また行きたくなる道の駅であってほしい。絶対に必要であると考えている。

○客の立場の言葉は確かに要と思う。「楽しくなる」や「おもてなし」や「そこに行って」や「行きたくなる」など。

○「リピーター」という言葉は、非常に大事であるが、私は「リピーター」をさらに超えるべきだと思う。リピーターを超えて、いわゆるファン、サポーターとなる。リピーターはただ来るだけだが、ファンやサポーターになれば道の駅を宣伝してくれる。あるいは、道の駅の経営者になりかわって、「あそこの道の駅がいいから行ってみな」とロコミで言ってくれる。そういうファンやサポーター型まで発展させないといけないと思う。

○道の駅は、目的地として行くことが多い。固定客がたくさんいる。このようなスタイルにならないと経営の安定はないため、これらの要素は入れるべきだと考える。

○「また来たくなる、地域が育てる道の駅」はどうか。そこに「おもてなし」をどう入れようか等を考える方がコンセプトを作りやすいと思う。

○「にこにこ楽しい道の駅」を付け加えたい。どこが楽しいのだろうと期待する気持で訪れたときに、「良いもの」があれば毎年その時季に来てもらえる。「良いもの」には、農産物や加工商品といったものが全て含まれる。

○道の駅に何を期待するか。自分は、トイレの用が足せる休憩機能と、何か美味しい物を食べる飲食施設とメニュー、もう1つは買い物である。それぐらいしか求めないが、議論を聞いていると、総合レジャーセンターみたいな雰囲気になりそう。

⇒そういった道の駅が望まれていることは確かである。関東で一番人気の川場田園プラザはまさにそうである。岐阜のほうのハイウェイオアシスもそういうコンセプトになってきており、観覧車がある。こういうタイプを本格的にやるのであれば、早くやったほうが勝ちだと思う。関東にはあまりないので、川場村は客が来すぎて困っているときく。別の道の駅が育ってくれば分散してくれるだろうと考えている。【岡本会長】

○滞在型の道の駅で車が長時間停まっていたら回転が悪いのではないか。

⇒回転は悪いが、回転を取るかどうかという問題である。【岡本会長】

○通過する人が少ない以上、やはりわざわざ来てもらえることを中心にしないといけない。

○地域が育てるという意味は、市民が育てたいし、市民も楽しみたいだろうし、利用客にも楽しんでもらいたいので、広い意味で「みんなが楽しい道の駅」に集約できるのではないか。

【岡本会長】

⇒良いと考える。経営を縛らないようなコンセプトであれば良い。

○修飾語をたくさん入れると範囲を狭めてしまうので、「みんなが楽しい道の駅」にしておいて

はどうか。楽しみを追求しようということ。【岡本会長】

○なるべくシンプルな方がいいかもしれない。

○「女性に優しい道の駅」はどうか。ターゲットは女性。女性に優しいということは、それにひかれて男性も付いてくるということである。【岡本会長】

⇒狙いは良い。

⇒女性と言ってしまうと、差別というイメージになってしまうから、老若男女全員という意味で、かえって言わないほうが良いのではないか。

○非常にシンプルになったため、その思いについて解説文を書いておく必要があるとして、今日のところはこれで整理しておくものとする。【岡本会長】

## ■議事(1) 基本構想 ②「道の駅」立地計画について

### 【事務局説明】

- ・筑西市「道の駅」の立地計画について、候補地の選定フロー、候補路線の概要、候補エリアの抽出について説明を行った。
- ・質疑応答および意見交換を行った。

### 【主な意見、質疑】

○(Q) 会議所の意見として、候補エリアの選定については総合的に評価の高いDで異存はないが、推進協議会の意見にあった「防災拠点」や基本方針の中の「市民が防災を学び」とあるようにいざというときによりどころとなる場を目指すような、何らかの方策は考えているのか。防災としては候補エリアの中で一番弱い地点であるため、何か補完や補強を考えているのか。

⇒(A) 今想定しているのは非常用の電源や給水タンク、あるいは、ある程度の設備の導入である。しかし、市全体の防災拠点というようなこと、市役所、体育館のような形は想定していない。有事の際に一時的に近隣の方の避難ができる場所は想定していかなくてはならないと思っている。【事務局】

⇒(Q) この間の災害で、常総市内において相当車が水没している。ここが防災拠点だといっておいて、安心してここへ駐車した結果、水没してしまったという場合は、防災拠点の名前に恥ずべき防災拠点だと取られかねない。水害に一番弱いところなので、防災拠点だから水没はしないものと安心して駐車場スペースに車を置いて逃げてしまうこともあり得る。

⇒(A) ハザードマップで説明したように、一番低いところの交差点が36.2mである。今の想定では、そこまで水が来ることがないので、50号が水没することはないと計算しているため、50号と同等レベルまで盛り土をすれば十分に大丈夫だと考えている。【事務局】

○(Q) 前回、小貝川が決壊したがあのときはどの辺まで水が来たのか。

⇒(A) 川澄の本部落、稲荷宿と青い部分があるが、そこでも床上浸水までは来ていない。【事務局】

○(Q) 浸水はしたのか。

⇒(A) 床下浸水はした。【事務局】

○昭和61年の水害を教訓にして、相応に整備されたのではないか。

○今の時点の国土交通省の見解はハザードマップである。【岡本教授】

○候補エリアDであれば、中館とか、大町、本城町とか、いろいろなところの道路が全部50号線につながっている。バイパスをつくったら、あそこが一番行きやすい。人間の集合の数、集まれる数の能力が一番高いのではないか。集まりやすい環境が大事。候補地Dは4つの道路から行けるため一番行きやすいと思う。コスト的にも、例えば、盛土の量などもはるかに少なくて済むのではないか。

⇒計算してみないとわからないのではないか。【岡本会長】

○下館地区は、道路がみんなマウンドしていて高い。そのため、落差が少なくもっとも盛土量が少ないのは、川澄地区（エリアD）だと思う。

⇒ハザードマップでは、1m浸水するとなっている。【岡本会長】

⇒それでも盛土の量は一番少ないと思う。

⇒1m浸水すると、人が歩けない。【岡本会長】

⇒D地区は、1.5mの盛り土をすれば、50号の道路高さまでいくので大丈夫だと考えている。

ちなみに一番盛り土が少ないのはAである。【事務局】

○近隣市であるような大災害があつて、よくそんなことが言えるなどと思うが。【岡本会長】

○防災拠点としては変だと思う。

○確かに高台より北側、西側のほうが安全地帯ではあるが、交通のアクセスや道路の集結地点なども含めて、今後の展開など考慮した場合、一番利用しやすい立地ではないかと思う。笠間の方面など、あらゆるところから終結できる。そのため一番利用しやすい道の駅ができると思う。

○このような総合評価をやる時は、普通は軸に重みが付く。あるいは、特定の条件に引っ掛かったら失格になるような要素がある。ハザードマップに入っている時点で失格であると考えている。8つの軸を同じ重みで点数を付けたところ、候補エリアDが優位になったというのが今の説明であったが、その8つの軸に対して重みと条件を付ける必要があるのではないか。補強をすればよいという考え方は確かにあるが、その状況について何のシミュレーションも、コストの計算もされていない段階では決断できないのではないか。また、ここだけ盛り土をしたときに、ほかの地域に余計な水がめぐらないかという心配もある。広大な駐車場の地盤高を一気に上げることとなるため、その分の水がどこかに行ってしまうという心配もしなければいけないのではないかと思う。【岡本会長】

○笠間方面、水戸小山連絡道、旧50号線のところからもつながっており、高台の住宅区域からの連絡なども候補地Dにはうまくつながっている。道の駅の今後の成り立ちを考えた場合、メリットが出せるのは、勘ではあるが、候補地Dだと総合評価の中で思っている。

⇒それはどこにも書いていない。【岡本会長】

○防災面を検討し、何等かの補強工事等によって完全に防災拠点になり得るということであれば、問題ないのではないか。

⇒その結果、300億円も掛かるとかとんでもない数字が出てきたら、やはり候補エリアの選定をやり直さなければいけない。【岡本会長】

○次回にすればよいのではないか。結論が出ない。

○条件がないので結論が出せない。今、皆さんがDと言われても1人で反対することになる。

【岡本会長】

○防災が1つのキーワードになっている限りは、やはり先生の言うとおりでと思う。

- 次回以降の検討予定などを踏まえると、今日決めてしまいたいという考えはよく分かるが、補強に係る費用のことなど、もう少し検討材料があったほうがよい。【岡本会長】
- 費用については、計算したものがある。【事務局】
- ⇒それについては資料がないので、次回へ持ち越し案件ということで良いか。数字を出すのであればちゃんと整理した書類にして皆で見るべきである。【岡本会長】
- 私も防災が引っ掛かった。
- （Q）候補エリアCは、立体交差であるためアクセスが悪いということで評価が下がっているが、294号沿いの1万7,000台の交通量はとても魅力がある。50号BPの交通量が1万2600台というのは計画でしょう。実績はどうなのか。1万2600台通るととても思えない。
- ⇒（A）1万2000台というのは、開通当初に実測した数字である。【飯田オブザーバー】
- ⇒（Q）現在も同様か。
- ⇒（A）最近は取っていないが、今年度また計測する予定である。【飯田オブザーバー】
- 1万2600台が仮に正しいとして、294の1万7000台が加われば3万台近い交通量となる。通過型か、滞在型か、目的地型かということもあるが、交通量という点では候補地エリアCのほうが、はるかに条件がいい。
- 目的地型、滞在型の道の駅として、そこに客を引っ張ることを考えないと事業として成立しない。交通量を当てにするのではなく、集客方法を考えなくてはいけない。候補地エリアCはいいとは思わないが、Dであれば、ひとを集める工夫が必要。
- 行きたくなる魅力というのは道の駅の作りようであるが、行きやすさはそうはいかない。高台や西の方に向かっていくというのは非常に行きづらい。交通量の多さだけで判断するわけにはいかない。
- （Q）294号の道の駅としてつくることはできるのか。
- ⇒（A）294号沿いであれば、一体型で整備することは無理である。【事務局】
- 防災機能はもちろん考えるとしてもDしかないだろうと思う。ただしDにしたときは集客のアイデアが必要である。
- 候補地選定の件は、次回に持ち越したとして、今後の展開やコンセプトを受け止められるだけのキャパシティ、将来的な拡張可能性、土地の開発費用など、付帯情報も併せて評価してもらいたい。様々な可能性を考慮して判断したい。【岡本会長】

## ■議事(1) 基本構想 ③「道の駅」整備・管理運営手法について

### 【事務局説明】

- ・「道の駅」整備・管理運営手法の考え方と全国および茨城県における道の駅の管理運営手法の傾向について説明した。

### 【主な意見、質疑】

- （Q）運営者を定める段階になったら公募にかけることとなり、筑西市が目指す道の駅のコンセプトに対し、どんな展開が考えられるのかというプロポーザルを出してもらい採点をした上で一番良い事業者と契約をする、といった形を前提にしているということでしょうか。【岡本会長】
- ⇒（A）まずは、運営者について、第三セクターにするのか民間とするのか、もしくはその他



組合等の設立なども考えられるため、まずそこを協議いただき、仮に民間企業に委託するとなった場合はそういったプロセスを踏むことになると思う。【事務局】

⇒(Q) いずれにせよ、三セクであったとしても、民間の力が必要であるということ。三セクをつくるかどうかは市役所の判断だと思うがどうか。ここの協議会で三セクをつくれと提案したとしても、市で三セクをつくられるわけではないと思う。【岡本会長】

⇒(A) 基本計画の中で、管理主体についても、収支計画と、コンセプト等から総合的に判断してこういうあり方が望ましいということまではこの協議会の場で合意形成をしておきたいと考えている。【事務局】

○これまでの議論から言うと、市民の手によって作り出したい、市民がかかわりたいという思いが、いろいろな表現で委員各位から出ているが、純粋民間事業者が運営者ではそこに到達できない可能性が懸念される。その意味で言うと、やはり三セクのほうが手段としてはよさそうな気がする。ただし、市民の意見も聞くということを前提に契約してくれる民間事業者がいれば、それはそれでもいいと考える。【岡本会長】

○第三セクターが一番妥当な線かなと思うが、そのときに出資の比率が問題である。出資者は、公募になるかどうかかわからないが、地元銀行やJA、市の主たる機関には出資してもらう。出資してもらうことで市内機関に参画意識が出てくる。さらにそこに市民の方を入れたいと思う。立ち上がってから市民が何も意見を言えないのでは困る。市民が出資して参加し、出資者として意見が言えればいいのでないか。

⇒それは良い。市民参加型である。

⇒出資比率は2割か3割かはわからないが、そのぐらいの比率で市民が参加するというやり方をする。これをやっているのは、愛媛県内子で、市が50%で、残り50%は市民が出資しているという市と市民の合体型で、非常に珍しい形。それで非常にうまくいっている。市民の参画意識を出すことが非常に大事だと思うため、このような提案をする。市民が株主になるということ。出資者であり、当然、使用者にもなり、客にもなる。そういう立場で運営について意見が言えるため、先ほどの進化するということに持っていきやすいわけである。

⇒次回までに資料を用意してほしい。【岡本会長】

○団体等になると、責任があいまいになってしまう。もし、欠損して損失を被ったときは誰が責任を負うのだという問題に発展する。

○せっかくだから、マイナス思考ではなくて、できるだけ夢や希望、子どもたちのためにという気持ちも盛り込んで作りたい。大荷物をしょってしまったという感じでは誰も来なくなると思うので、われわれ市民一人一人がきちんと構えていかなければいけない。

○この部分も、また次回以降に引き続き議論していくことになろうかと思う。少なくとも、すべて市だけで運営することは難しいだろう、民のアイデアも必要であろうということをご認識いただいたと思う。ただし、市民が育てるのだという意識が極めて強いということを再確認したということで、まとめにさせていただければと思う。【岡本会長】

## ■議事(2)その他

### ◆その他意見

○会議所の会員から、基本構想導入機能の検討の中で、休憩機能について、考慮をしてもらいたいという意見があった。バイクライダーや自転車で来た人たちの屋根付き駐輪場があれば

非常に特色のある道の駅になるのではないかと。そういった例が少ないらしく、バイクライダーが困っているそうである。道の駅にそういう施設があれば、ロコミでこの道の駅に寄ってみようということが考えられる。

- 日本一きれいなトイレなど、ある程度気持ちのいいトイレをぜひ設置していただきたい。
- 車で犬を連れてドライブされる方向けに、犬の遊び場、ドッグランがあると、特色のある道の駅になると考える。
- 観光バスは、道の駅によっては入りづらい、駐車がしにくいということがあるので、動線を考慮していただき、観光バスが入れるような道の駅にしてもらいたい。
- 今後、事務局の方で利用者と想定いたします団体様等を含めてヒアリング調査等を行っていきたいと考えている。今回、お集まりいただいている委員の方でも、団体の代表者の方がいらっしゃるの、まだ詳しい時期や内容はこれから検討することになるが、実施の際は、ご対応いただくようお願いいたします。【事務局】
- （Q）前回お願いした、本活動の市民へのPR、広報はどうなったのか。  
⇒（A）今回、広報誌10月1日号に掲載した。何か決まった段階では随時のせていく予定であること、その中で、もし意見等があったら問い合わせしてほしい、といった内容である。【事務局】
- ソーシャルメディアを活用したPRをしてほしい。これは今後、集客には大事だと思う。SNS、あるいは、ホームページ、Facebook等々でも、あるいはファンクラブや広報誌等を考えてもらいたい。
- 無料のWi-Fiを道の駅のエリアに流してほしいという意見があった。観光地としてエリア的にWi-Fiを無料でという動きが今、各地で行われている。道の駅にもぜひ無料Wi-Fiの機能を付けてもらい、来訪者が無料でタブレット端末を使って、観光案内までできるようにしてもらいたい。
- （Q）ベビールームというのは、授乳室と考えていいのか。  
⇒（A）その通り。【事務局】
- バイクでなく、自転車の駐輪場が欲しい。  
⇒自転車もぜひお願いしたい。サイクリングロードを整備してほしい。

以上